様式第５号

令和　５　年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

| 学校番号 | 17 | 学 校 名 | 静岡南部特別支援学校 | 記 載 者 | 齋藤　夕紀 |
|---|---|---|---|---|---|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

| | 取組目標 | 成果目標 | 自己評価 | 関係者評　価 | 意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | 生活年齢、学びの積み重ねを大切にした系統性のある教育課程の編成 | 生活年齢、発達段階を踏まえ指導している | A | A | ・生活年齢を意識して指導することは、障害の軽重に関わらず大切なこと。意識されていてよい。<br>・学びの系統性と聞くと教科のイメージだが、それだけだろうか。<br>・個人差や障害の状況による部分もあるが、小中間の連続性を継続してほしい。<br>・実際に即して必要なことを検討していくことが大切。<br>・学習指導要領は「万人にとってのマニュアルではない」教師が考える余地があるか。基準として考えていきたい。 |
| | | 学びの連続性を意識し、学年や学部を超えて系統的に学習計画を立てている | B | B | |
| | | 日常的に年間指導計画を活用している | A | A | |
| | | 学習指導要領に基づき、目標設定や学習評価をしている | B | B | |
| | | 将来像をイメージし、進路指導を行っている | B | B | ・将来像のイメージ化は難しい面もあるので卒業生や社会福祉事業の方を呼んで話を伺う機会や交流する機会を大切にしてほしい。<br>・実際に施設見学することも有効。 |
| | | 保護者にとってわかりやすい進路指導や参考になる進路情報を伝えている | B | B | |
| イ | **的確な実態把握に基づき「何ができるようになるか」を目指した授業実践** | 「何ができるようになるか」（将来像）をイメージし、授業づくりをしている | A | A | ・具体的な将来像を実感として得られることにより、授業等にも生かせるので大事な視点。ぜひ工夫してほしい。<br>・将来像を具体的に子どもがイメージすることは難しい。<br>・保護者とのコミュニケーションを密にしていってほしい。 |
| | | チームで児童生徒の実態や目標を共通理解している | A | A | |
| | | 児童生徒や保護者が願う将来像に応じた授業を実践している | B | B | |

様式第５号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 学びを支える教材教具及び補助具(姿勢保持補助、代替ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝツール等)を指導に活かしている | A | A | ・ＩＣＴの活用は大変有意義。活用の仕方について研修が必要。<br>・ＩＣＴの活用は難しいことだが、取り入れた方が子ども達に視覚情報を使って伝えるのは有効なので取り入れた方がよい。 |
| | | ＩＣＴ機器を授業で活用し、主体的な学びを促している | A | A | |
| ウ | 教職員が主体的に語り合って取り組む授業改善や業務改善の推進 | 学部を超えて授業について語り合っている | B | B | ・教職員が少人数ならではの良さを生かし、共有するべきことを、学部を超えてできるとよい。<br>・時間外勤務の問題は以前から難しい面があった。ある程度は割り切って線引きする必要がある。 |
| | | 小グループで業務改善について語り合い、できることを見つけている | A | A | |
| | | 全教職員が時間外勤務月 45 時間以内、年 360 時間以内で勤務している | B | B | |
| | | マイ定時退勤日を設定し、実行している。 | B | B | |
| エ | 清潔で衛生的な安心して学べる学習環境づくりの推進 | 常に状況に応じた感染対策をしている | A | A | ・感染対策、安全について学校ほど尽力しているところはない。<br>・他部署との連携（教員と事務）も大切。 |
| | | 危険個所等を見つけた際、そのままにせず、迅速に改善している | A | A | |
| | | 児童生徒や保護者が安心できる学習環境を整備している | A | A | |
| | | 施設に不良個所が生じた際、迅速に修繕している | A | A | ・環境整備は児童生徒に大きな影響を及ぼすので、続けてほしい。 |

様式第５号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 物品の在庫状況を常に確認し、計画的に整備している | B | B | ・安全に学校生活を送るために迅速な対応も必要になる。<br><br>・ＩＣＴを活用した視覚特支との情報共有は必要なことだろうか。 |
| | | ＩＣＴを活用し、静岡視覚特別支援学校と情報共有している | C | C | |
| オ | **学校安全、防災、防犯体制見直し、共通理解、教職員の主体性強化** | 緊急時の自分の役割を理解し、場に応じた判断ができている | B | B | ・とにかく自分の身を守ることを考えることが大切。<br>・発災の時間帯による対応策の検討を。<br>・福島県、まだ仮設校舎の養護学校がある。引き渡し後の生活のイメージをもっておくことや、防災訓練で避難生活のシミュレーションを行うなどいろいろな想定をしておくことが必要。 |
| | | 隣接施設や静岡視覚特別支援学校と連携し、安全対策がとれている | B | B | |
| カ | 児童生徒、教職員が自己や仲間を理解し、互いを認め合い、大切にする教育の充実 | 児童生徒が対人関係や人権等に関する悩みゼロで学校生活を過ごしている | B | B | ・学校見学では、教職員が児童生徒に丁寧に関わっている様子が見られた。 |
| | | 教職員が高い人権意識をもって児童生徒や同僚に接している | B | B | |
| キ | **地域、関係機関、保護者と連携した体験的学習や表現活動の充実** | 地域の人材や資源を活用している | A | A | ・今後もさらに地域資源の活用を期待している。<br><br>・地域の方に知ってもらうことは大切。学校開放（休日）があるとよい。<br><br>・立地がよいことを生かし、近隣の施設と共同でイベントができるとよい。（広い場所の確保、みんなが集まりやすい）<br><br>・「ボッチャ（軽運動）」を必要としている高齢者などニーズに合った人に呼び掛けていくとよい。 |
| | | 学校のことを知る人が増え、つながりが広がっている | A | A | |
| | | リハビリ見学が日々の授業に活かされている | A | A | |
| | | 学校が地域に貢献できることは何かを模索し、実践できている | B | B | |

様式第５号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 保護者が学習の様子がよくわかると評価している | B | B | ・学校が地域に貢献できることを見つけ実践することが重要。<br>・施設入所、訪問教育の児童生徒が殆どのため、保護者の行事の参加は難しいことが多いが、参加しやすくなるための工夫は続けてほしい。 |
| | | より多くの保護者が学校行事に参加している | B | B | |
| | | 訪問教育保護者がスクーリングやリモート学習により人との関わりが広がったと評価している | B | B | |
| ク | 共に学び、共に育つ交流及び共同学習の推進 | 方法や内容を工夫し、交流教育を持続している | B | B | ・交流学習と共同学習のねらいは切り離して考えた方がよい。<br>・成果を測る尺度、視点がもちにくいのでは。 |
| | | 双方に成果の残る学校間交流を実施している | B | B | |
| ケ | 静岡視覚特別支援学校との連携・協力による効果的な教育活動の模索、検討 | 共通ルールに基づき、施設を共有できている | A | A | ・肢体不自由、視覚障害共に、感覚にアプローチしていく教育であるため共有できることは多いはず。共に行う教育を大切にしてほしい。 |
| | | 日常的にかかわり、互いを認め合いながら共に学んでいる | B | B | |